

ラパス移住地



La Paz



ラパスってどんな場所？

3つの地区からなる移住地

ラパス移住地は、3つの地区（フジ、ラパス、サンタローサ）から構成されています。またラパス移住地は元々はフラム移住地と呼ばれていました。ラパス移住地の総面積は約 25,600 ヘクタール（千葉市と同じくらい大きさ）で基幹作物は大豆、冬作には小麦が栽培されており、近年は畜産事業にも取り組んでいます。

📢 移住初期の様子分かる資料館



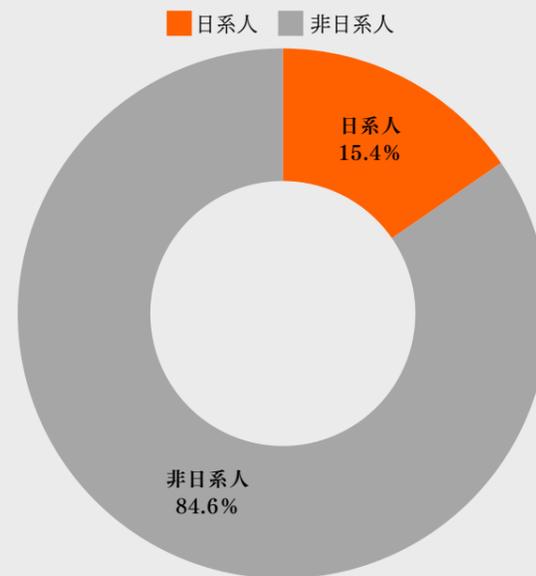
「雛壇」

毎年3月のひな祭りで使用されています。

ラパス日本人会の敷地内に、入植50周年を記念し創立された資料館では、移住初期の建物が再現された作品や当時の物品が展示されています。ラパス移住地はパラグアイ日系移住地における「大豆生産発祥の地」です。写真パネルでは、三菱商事・住友商事・東洋綿花と大豆輸出契約を結びラパス移住地産の大豆が日本に輸出されていた経緯を知ることができます。

人口

ラパス市：
約3300人
日系人：約600人



※2024年10月時点

ラパス日本人会



ラパス日本人会は1971年にプラム自治体として発足し、1989年にラパス日本人会に名称変更しました。日本人会の傘下には長寿会、婦人部、青年部等の団体があります。年間通じて教育関連行事、夏祭り、ひな祭り、運動会、七夕、敬老会等さまざまな行事を企画・実施しています。

社団法人 ラパス日本人会

[所在地] Distrito de La Paz, Itapua

[電話番号] (+595) 763-200009

[E-mail] asolapaz.py@gmail.com



日本語学校



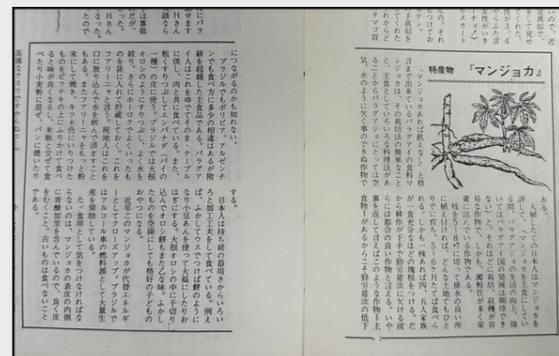
ラパス・イタプア国際文化会館

ラパス日本語学校は幼稚園、小学校、中学校が同敷地内にあります。生徒数は約70人で非日系人の生徒も通っています。外務省の補習授業校にも指定されています。

2002年に日本万国博覧会記念協会の補助金により建設されました。

周年記念誌

ラパス日本人会では入植30周年から10年ごとに記念誌を発行しています。入植から現在までの経緯に加え、その10年間のラパス移住地の出来事をありのまま伝えている周年誌です。



桜まつり

数年前から始まったお祭りです。ラパス移住地には多くの桜が植えられており、開花シーズンには日系人、パラグアイ人が花見に訪れます。



ラパス農業協同組合

ラパス農業協同組合は、1970年に設立され、ラパス移住地の社会経済的発展の促進と、生活の質の向上、地元生産物に付加価値を付けることを目的としています。2003年には小麦製粉工場が完成し、2010年には家畜用飼料工場の操業も開始され、畜産業も伸び始めています。ラパス農業協同組合は日系農協の中で畑作物生産規模はピラポ、イグアスに続いて3番目です。



フジ地区・サンタローサ地区

現在のラパス移住地は、3つの地区（フジ、ラパス、サンタローサ）から構成されています。1955年からフジに、1956年からラパスに、1957年からサンタローサに入植が始まり、各地区に自治組織が設立されました。その当時に建設された日本人会館が現在も各地区の日系人に使用されています。



ラパス移住地の日系社会についてさらに詳しく知りたい方は要チェック！！

<https://x.gd/Oox4A>
